

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬理学		講義	和中 敬子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医薬品の形状、体内動態、作用機序、薬効に影響を与える因子などの総論を中心に学ぶ。各論については、時間の関係上、循環器系の薬物などの臨床工学技士に関連性の高い薬物や、一般的に日常で良く使用される薬物を中心に学ぶ。				
授業の到達目標				
臨床工学士として医療現場で必要な薬理知識を身につけ、適切かつ安全な治療を提供できるようになることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	薬理学とは			
2	薬物と医薬品（新しい薬の開発）			
3	薬が作用するしくみ			
4	薬の体内挙動（投与経路・吸収など）			
5	薬の体内挙動（代謝・排泄など）			
6	薬効に基因する因子			
7	薬物の有益性と危険性			
8	抗感染症薬			
9	免疫治療薬			
10	循環器系に作用する薬物（降圧薬など）			
11	循環器系に作用する薬物（抗凝固薬など）			
12	循環器系に作用する薬物（貧血治療薬など）			
13	中枢神経系に作用する薬物			
14	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物			
15	救急の際に使用される薬物			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	授業内容の理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
系統看護学講座：薬理学	吉岡 充弘 他	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
今日の治療薬2022	島田和幸 他	南江堂		
自由記載				
備考				